

2023年8月期 第2四半期決算 決算補足資料（質疑応答集） 1

この質疑応答集は、2023年4月17日(月)の2023年8月期 第2四半期決算発表に関して機関投資家・金融機関等の皆様からのお問い合わせおよび主なご質問をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q 01

来期（第16期）の業績についてはどのような見通しでしょうか。

A 01

今期は下方修正と減損を行ったので、来期はより大きな成長を遂げたいと考えています。来期及び再来期も見据えた中期経営計画の開示も見据えて、計画数値の開示を検討しているところです。

Q 02

AIZE 部門の来期（第16期）の売上はどのような見通しでしょうか。

A 02

AIZE 部門については、特に脱マスク社会における顔認証の拡がりや、アルコール検知義務化の

動向を見据えて、来期計画に織り込みたいと考えています。また、他社の既存システムの付加価値を向上させる機能として AIZE の顔認証 AI を搭載いただく引き合いが増えており、SDK、API の開発をしており、来期には、こうした機能提供による売上の積み上げを見込んでおります。製品開発の面での連携のみならず、AIZE の販売パートナー網が拡大しており来期はより大きな売上貢献があると予想しております。

Q 03

下期の販管費が増えている理由について教えてください。

A 03

決算説明資料（P7）にもございますが、研究開発費 97 百万円、新卒人件費及び研修費 20 百万円程度他を計上しているためです。販売費及び一般管理費は、エンジニア人材不足時代において、ChatGPT をはじめとした AI 分野の技術追求の重要性が高まるなか、将来を見据えた人材への投資やソフトウェア開発に関する費用を研究開発費として計上しております。

Q 04

今期、AIZE 部門の売上が下方修正になっている理由について教えてください。

A 04

決算説明資料（P6）にもございますが、大手企業からの受注が顔認証市場の拡がりの見極めや用途変更などによるカスタマイズで時期がずれたこと、スポットの機器売上が前期比で減少したこと、アルコール検知義務化が遅延したことが理由として挙げられます。ほかには前期、コロナ禍を考慮した上で展示会への出展を控えたことで、大型の取引先の獲得が減少した影響がでたものと考えております。

Q 05

減損のタイミングがなぜこの時期であったかの説明してください。

A 05

決算説明資料（P6）にあるとおり、脱マスク社会へと移行していくなかで、ポテンシャルがありつつもこの先が見通しにくい環境下において、このタイミングで保守的かつ前倒しで損失計上することが、今後の当社にとっても、市場へのメッセージとしても最善であると考えました。

Q 06

ソフトウェアの会計処理の変更について教えてください。

A 06

前期以前及び当期 1Q2Q まで、AIZE の技術開発に関する人件費を中心としたコストはソフトウェア仮勘定として資産計上を行っていましたが、2Q 末で減損し、3Q 以降は研究開発費として販管費に計上いたします。

Q 07

SI 部門の当期売上見込みを減少させている背景について教えてください。

A 07

一定の経験を積んだエンジニアの SI 部門から AIZE 部門への戦略的な異動を行ったこと、また、エンジニアの市況から 1Q で協力会社からのエンジニア調達が見込みより下回ったことによるものです。後者につきましては、現時点では改善傾向にあります。

なお、本件については、引き続き皆様からのお問い合わせおよびご質問をまとめたうえで、追加の公表を予定しております。